

所属・資格 ドイツ文学科・助教

申請者氏名 跡守 美音

研究課題		ドイツ語圏の現代文学研究—1980年代の作品を中心に—
報告の概要	研究目的 および 研究概要	戦後ドイツ文学は、自国の過去の罪と向き合い、過去の清算についてや歴史的・政治的な問題を取り上げた作品が多く発表され、政治に積極的に参加する作家や詩人がドイツの文壇を牽引してきた。その一方で、政治的なテーマとは距離を置き、現代社会における人々の不安や孤独、疎外などをテーマに独自の文学を追究したペーター・ハントケやポート・シュトラウスのような次世代の作家が徐々に活躍し始める。本研究では、特に彼らの独自の文学世界が確立されていく1980年代の作品を中心に、作品分析を行いたいと考えている。
	研究の結果	今回取り上げたペーター・ハントケの『真の感覚の時』は、同時代のハントケの他の作品に比べ批判的な評価が多く、先行研究で扱われることが少ない作品であった。先達の研究で指摘があったように、同作品はハントケの他の作品にも見られたテーマやモチーフが再び用いられていることが確認できたが、わずかではあるが、それまでの作品にはない主人公の内面的な発展が見受けられ、文学的転換と言われる80年代の作品群への兆しを見いだすことができたと考えられる。またそこから、本作品の意義について検証した。本研究に関しては、研究成果物として下記に発表するに至った。
	研究の考察・反省	1970年代のハントケの作品を中心にこれまで研究を行ってきた。今年度は、文学的転換が認められると言われている80年代の作品研究を行う計画であったが、まだ検証をしていなかった70年代の作品である『真の感覚の時』の資料収集と作品分析に予定以上に時間がかかり、80年代の作品と研究資料について調べるまでには至らなかった。次年度は80年代の作品についての研究にも取りかかりたいと考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究成果物 ペーター・ハントケの『真の感覚の時』に関する一考察 『リュンコイス』 52号 2019年3月5日 桜門ドイツ文学会